

コスモスオリジナル授業チェックリストについて

これまで、校内でまとめてきた成果物の内容を「チェックリスト」として日常的に活用できる形に作り替え、今年度は試案として完成させました。

授業づくりにかかわる課題について、自己チェックすることにより「自分で改善を進めるツール」となることを目的に作成。

チェックリストは今後、本校スーパーバイザーの協力により因子分析を踏まえ、項目間の整理を進めながら完成を目指していきます。

オリジナル授業チェックリストができるまで

平成19年度



校内公開授業の感想文から授業の課題を提起

平成20年度



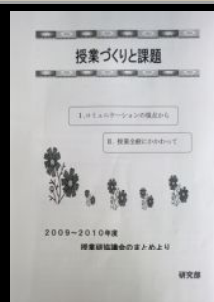
・自閉症とは
・自閉症と知的障がいの違い
・認知特性を整理

平成21・22年度



教室環境とスケジュールのアイデアを紹介

平成23年度



2年間の授業研協議会のまとめから課題エキスを整理



授業研協議会
・ゴール設定
・助言内容
・協議の読み取りについてまとめる

授業づくりは学校づくり

「わかる」「学ぶ」楽しさのある授業！

子どもとキャッチボールしながら創り上げる授業を目指して！

一コスモス授業チェックリスト

年 月 日 授業名：

記入者：

1：できていない 2：どちらかといえぱできていない 3：どちらでもない 4：どちらかといえぱできている 5：できている

1 授業環境		1	2	3	4	5	↑
人的環境	① 子どもとの信頼関係が築けている。						
	② 子どもが受け止められることばの質と量を配慮している。 (環境としての良き大人の存在)						
物理的環境	① 授業に必要なもの以外は片付ける、整理整頓、刺激を精選するなど、教室環境を整えている。						
	② 授業のスケジュールが明確に提示されている。 (全体と部分分かる工夫も含めて)						
	③ 授業の活動内容と順番を分かるように提示している。						
	④ 子どもが話を聞く時や発表する時のルール等がある。						
	⑤ 授業目標を子どもと一緒に確認している。(個々の目標を生徒にも伝えている)						
	⑥ 主指導とサブの位置取りや活動の動線が整理されている。						
2 単元設定							
	① 般化を考えて学習内容を設置している。						
	② できる課題から少し頑張らないとできない課題が設定され、授業に学びを作っている。						
	③ 生活年齢にふさわしい学習内容である						
3 障害特性の理解							
自閉症	自閉症の「3つ組み」の障害特性、認知の障害、感覚の偏りについて理解し支援している。						
	① 子どもの注意が向いたことを確認してから伝えている。						
	② 指示は一度に一つにしている。						
	③ 集団授業だけでなく、個別学習も組み込んでいる。						
	④ 刺激を精選している。(環境の構造化)						
	⑤ スケジュール、手順表を準備し、確認や振り返りの活動がある。						
	⑥ 得意な部分を伸ばす指導も組み込んでいる。						
肢体不自由	肢体不自由、視覚障害の特性を理解し支援している。						
	① 姿勢への配慮をしている。 ・操作しやすい姿勢。 ・見えやすい姿勢。 ・聞こえやすい姿勢。 ・活動に集中しやすい姿勢。						
	② 見やすさに配慮している。(色、形、大きさ、背景)						
	③ 見え方のちがいに応じて教材の提示位置や提示方法を決めている。						
	④ 操作のしやすさに配慮している。(教材の大きさ、太さ等)						
	⑤ 小さな力を大きな力にかえる機器を活用している。						
	⑥ 多種感覚(五感、前庭覚、固有覚を含めて)を活用している。						
	⑦ 安全なスペースが確保されている。						
	⑧ 子ども次の動きを見通せている。						
	4 ねらい・目標						
	① 実態把握ができている。 (障害からくる困難さ・学習到達度などの把握だけでなく生活アセスメントを含む)						
	② 目標設定は具体的な行動をあらわす言葉で表記している。(直接観察して評価できる言葉)						
	③ 個々の目標や評価の視点がある。						
	④ 目標を達成するための具体的な課題設定や活動がある。						

5 教材		1	2	3	4	5	↑
①	個々に応じたワークシートなど個別の学習が組み込まれている。						
②	指導したい内容を視覚化している。 (見て分かるように構造化し、操作を伴う活動があり、活動の結果が答えに導ける)						
6 展開							
①	ねらいのない待ち時間をへらし、学習の機会を保障している。						
②	子どもが考えるための時間を確保している。						
③	授業の中に「わかった」「できた」の体験がある。						
7 コミュニケーション							
発信	① ことば以外でコミュニケーションできる(ツール OR 補助伝達手段)を準備している。						
	② 発信する機会を多く設定している。 (自己選択・自己決定・準備する・片づける・配布する・提出する等)						
	③ 考えがまとまりにくい子、話すのが苦手な子への支援の工夫がある。 (選択肢やキーワード、ヒントカードの提示)						
	④ 見通しを持ち自分で動ける環境を物理的にも人的にも整えている。 (その言葉掛けは本当に必要?先回りして支援過多になっていない?)						
受信	① ことば以外でコミュニケーションできる補助伝達手段を活用し伝えている。						
	② わかりやすい説明・発問・指示ができています。 (わかる言葉で・ゆっくりはっきり・簡潔に・一つずつ)						
	③ 否定語・禁止語を使わず、肯定文で伝えている。						
やりとり	① 子どものことばを拾い、やりとりしながら授業をすすめている。						
	② 子ども同士がキャッチボール仕合える環境を作っている。 (ペア学習、グループ学習、発表、相互評価等の工夫)						
	③ 子どもの不十分なことばを補い、さらに世界を広げるようなやりとりをしている。						
	④ 生徒の表出を待つ姿勢がある。(せかさず・じっくり・さりげなく)						
8 評価							
①	内容の理解や定着、頑張りを即時に評価し子どもに分かる形で返す機会がある。 (すぐに・話し言葉や動作・表情で・視覚的に分かる方法で…)						
②	他者評価だけでなく自己評価や友達同士の相互評価等、多様な評価を組み入れている。						
③	結果だけでなくプロセスも評価している。						
9 ティームティーチングの役割と子どもへのサポート							
①	指導者間で主指導とサブの役割を確認し合い、責任の分担ができています。(主指導は主)						
②	能力に幅のある子どもたちへの適切な支援やハプニングへの対応の体制がある。						

授業研究協議会のまとめより作成・平成24年度研究PJオリジナル試案

